

石狩砂丘のはじまりはどい？

望来・聚富の海岸植生観察



石狩砂丘の始まりはこの辺り。背後に海岸段丘が迫る。

石狩市の海岸線約80kmのうち、南側約3分の1は海岸砂丘（石狩砂丘）。地図上では、石狩砂丘は厚田区望来・聚富付近から始まります。この地域を北から南へたどり、石狩砂丘北端の植生を観察してみましょう。

厚田区望来の海岸は、海に面して地層の露出した崖が続く「海岸段丘」という地形になっています。この海岸段丘の崖下は、幅50mほどの砂浜になっています（図1・P1）。ここには、波打ち際の環境に適応した塩生植物のオカヒジキやハマアカザ、外来植物のオニハマダイコンが多く見られ、ハマニンニク、コウボウムギ、ハマナスといった、海岸砂丘を特徴付ける植物は見られません。時折、ハマナスが見られますが、根には土の塊が付いており、崖の上部の草原に生えるものが落下してきたことが分かります（図2・P1）。

望来海岸を南へ向かうと、崖と汀線との間が100mほどに広がってきます（図1・P2）。段丘の

崖下には小さな砂の丘ができていて、ハマニンニクやコウボウムギが茂っています。この辺りが「石狩砂丘の始まる場所」といえそうです。段丘の崖は波による侵食を受けることはなくなり、崖の斜面は、オオイタドリなどの植生が茂り、緑色が目立ってきます（図2・P2）。

さらに海岸を南下して聚富まで至れば（図1・P3）、汀線から段丘の崖までの幅は1.5kmにもなります。汀線から500mほど内陸まで砂丘ができており、ハマナスなどの海浜植物が茂る自然の海岸草原が広がっています（図2・P3）。

ここまで来れば、すっかり海岸砂丘を特徴付ける植生で、北海道の海岸砂丘の原風景ともいえる景観に出会うことができます。

（内藤華子）

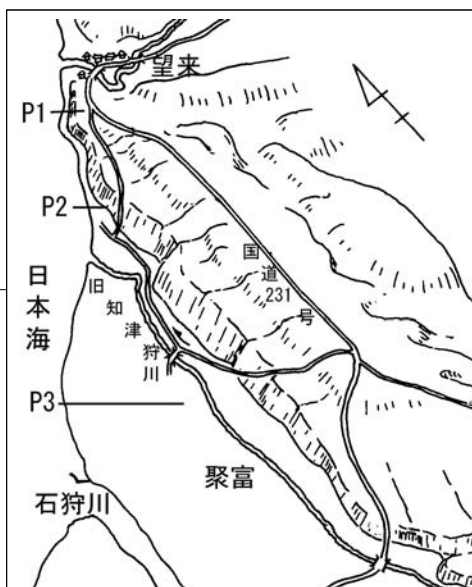


図1 望来から聚富の地形概観
（『札幌の自然を歩く』北大図書刊行会）
116ページより引用（一部改変）

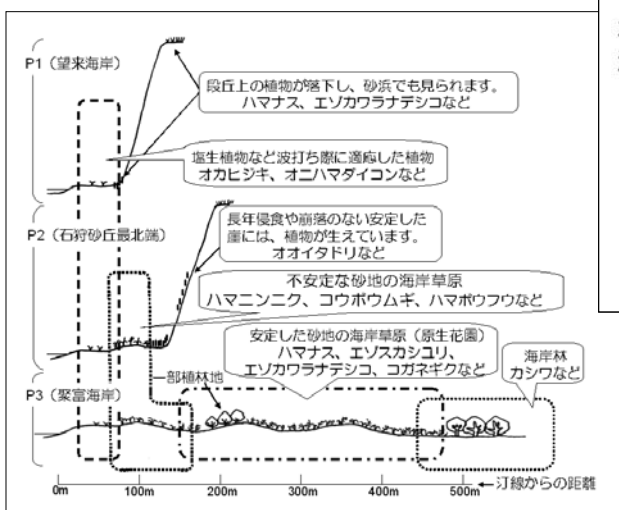


図2 望来から聚富海岸の地形断面および植生分布

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
■石狩浜海浜植物保護センター ☎72-3240
✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp